校報
雪椿
平成２９年３月３１日
No.　２１６
福島県立只見高等学校
住所　南会津郡只見町大字只見
字根岸 2358
電話　0241-82-2148

祝　卒業おめでとうございます

３月１日（水）、本校体育館において、「第５３回卒業証書授与式」が執り行われました。３９名の卒業生が、最後の最後まで只見高校生らしい姿を見せてくれました。堂々と胸を張って入場する姿や式中の振る舞いなど、今年度の卒業学年のカラーを存分に示す卒業式となりました。

当日、ご臨席いただきました来賓の方々をはじめ、保護者の皆様方、教職員、在校生など、たくさんの人に見守られながら、卒業生たちは、それぞれの人生の新たな一歩を踏み出していきました。

卒業証書授与
卒業生代表　渡部優花さん

▲厳粛な雰囲気の中、卒業生はそれぞれの思いを胸に式に臨みました

卒業生代表答辞
齋藤咲希さん

在校生代表送辞
五十嵐夏希さん

▲多くの方への感謝の気持ちが表れた式歌斉唱

３年１組

卒業式後の最後の LHR

３年２組

表彰式・同窓会入会式

２月２８日（火）、卒業式に先立ち、本校体育館において、「平成２８年度表彰式」「ブックスハート事業による図書の贈呈」「同窓会入会式」が行われました。

「平成２８年度表彰式」では、学業や部活動、生徒会活動において功績を残した卒業生たちが表彰されました。「ブックスハート事業による図書の贈呈」では、只見町から卒業生一人一人に図書の贈呈があり、卒業生たちは思い思いの本を受け取っていました。

「同窓会入会式」では、同窓会副会長の小沼一弘様からご挨拶があり、新入会員誓いの言葉を加藤正靖さんが務めました。また、同窓会からの卒業記念品（証書入れ）を目黒誠也さん、雪椿会からの卒業記念品（刺繍入りタオル）を長谷川夏美さんが、それぞれ卒業生を代表して受け取りました。

○平成２８年度表彰式の各賞受賞者は以下の通りです。

優等賞（２名）	半澤　綾乃　　渡部　優花
皆勤賞（６名）	小勝　春奈　　馬場　友香　　星　夕紫　　菊地　愛　　長谷川夏美　　渡部　優花
精勤賞（８名）	穴澤　風雅　　馬場　楓　　菅家ともみ　　菊地　萌花　　吉津　悠真　　齋藤　咲希 斉藤　咲子　　本田　雅也
生徒会功労賞（１０名）	大竹　まい　　加藤　正靖　　菅家　雄矢　　菅家　琉生　　馬場　楓 馬場　友香　　齋藤　咲希　　長谷川夏美　　三瓶　晃一　　目黒　誠也
福島県高等学校野球連盟表彰（１名）	加藤　正靖
会津地区高等学校体育連盟賞（１名）	目黒　誠也

○同窓会入会式の様子

新入会員誓いの言葉　加藤正靖さん

同窓会記念品受領　目黒誠也さん

雪椿会記念品受領　長谷川夏美さん

只見高等学校振興対策会議
第２回総会開催

２月１７日（金）季の里湯ら里（只見町）において、平成２８年度振興対策会議第２回総会が行われました。本会議の会長である菅家只見町長をはじめ、多数の委員の出席のもと、今年度の活動報告や生徒の活躍の様子、本校の進学指導の状況について意見を交換しました。

後半の協議の時間では、各委員の方々より、本校に対する期待と激励のお言葉、さらには只見高校魅力化のための提案をいただきました。地域の方々に見守られ、支えられていることを改めて強く実感することができ、我々職員も只見町で学ぶ意味とその可能性を再認識することができました。

平成28年度年度末　学校評価アンケート結果

福島県立只見高等学校

12月に生徒、保護者、教員を対象とした今年度の学校評価アンケートを実施しました。その結果をお知らせいたします。（アンケート回収率：生徒100％、保護者81.4％、教員100％）

1　アンケート項目および評価方法

以下の4つの大項目の中に各5～6の小項目を設け、4段階（A～D）※で評価しました。

Ⅰ 学力および授業の質の向上（教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して）
Ⅱ 進路目標の実現（進路目標、情報提供、進路指導等に関して）
Ⅲ 生徒指導および部活動（服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して）
Ⅳ その他（整理整頓、生徒の学校生活等に関して）

※
A:「はい」
B:どちらかといえば「はい」
C:どちらかといえば「いいえ」
D:「いいえ」

2　アンケート結果

※達成度=評価Aを90%,Bを70%,Cを30%,Dを10%として評価者数で平均した値

（1）各評価者からみた平均達成度（昨年度）

生徒	保護者	教員
68.1%(66.6%)	71.3%(69.6%)	70.2%(67.8%)

（2）各評価者からみた高い評価（各3項目）

	順位	項　　目	達成度	順位 生	保	教
生徒	1	あなたの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	80.7	1	2	8
	2	あなたは部活動等に積極的に取り組んでいますか。（～いましたか。）	77.0	2	1	14
	3	あなたは整理整頓に心掛け、清掃は積極的に行っていますか。	75.5	3	10	17
保護者	1	あなたのお子さんは部活動等に積極的に取り組んでいますか。（～いましたか。）	83.1	2	1	14
	2	あなたのお子さんの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	82.0	1	2	8
	3	あなたや生徒が提出した書類（申請）について、学校はきちんと処理していると思いますか。	78.0	4	3	1
教員	1	生徒・保護者から提出された書類（申請）や徴収金の受付処理及び管理を適正に行っていますか。	84.1	4	3	1
	2	わかる授業をするための工夫をしていますか。	81.8	6	9	2
	3	評価は能力・態度・意欲等の総合的評価になっていますか。	80.6	11	7	3

（3）各評価者からみた低い評価（各3項目）

	順位	項　　目	達成度	順位 生	保	教
生徒	22	あなたは学力の向上に向けて、計画的に家庭学習を行っていますか。	57.4	22	21	22
	21	あなたは進路実現へ向けて、補習や個別指導に積極的に参加していますか。	59.5	21	16	14
	20	あなたは進路に関する自分の適性をよく知っていますか。	62.1	20	17	20
保護者	22	学校には生徒の悩みや問題、いじめ問題に関して相談できる教職員がいると思いますか。	63.3	19	22	10
	21	あなたのお子さんは、学力向上に向けて計画的に家庭学習を行っていますか。	64.7	22	21	22
	20	学校からの進路に関する情報提供は適切だと思いますか。	64.9	18	20	19
教員	22	生徒は計画的な家庭学習を行っていると思いますか。	39.4	22	21	22
	21	生徒の進路目標は明確になっていると思いますか。	54.7	15	12	21
	20	生徒の進路に関する適性をよく知っていますか。	60.6	20	17	20

3　アンケート結果の分析

Ⅰ 学力および授業の質の向上（教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して）

今年度から各学期に１回「授業力向上週間」を実施し、教員間の互見授業と全職員による反省事項の共有を通して、教科指導力の向上を目指しました。アンケートにおいても、本校の全ての教員がわかる授業と個々の生徒を生かす評価の工夫をしていると答えており、このことは大部分の生徒、保護者にも理解していただいたようです。しかし、生徒の自主的な学習につながる十分な動機づけには至っていないのが現状です。生徒の家庭学習の成果が生かされ、成功体験につながる授業展開の工夫はもちろん、生徒の学習状況に関するさまざまなデータを生徒・保護者・教員間で共有し、それぞれの立場でその役割を果たしていくことが重要です。また、全ての学力層に応じた学習支援が求められています。現行の全体指導と個別指導、習熟度別授業の在り方の検証とともに、生徒の志望大学の問題分析や外部模試結果の共有と活用をさらに充実させ、国公立大学を含めた四年制大学進学者を強力に支援できる体制を整えていきたいと考えます。

Ⅱ 進路目標の実現（進路目標、情報提供、進路指導等に関して）

本校は各種講演会によるガイダンス機能や表現活動、体験的な学習を通して生徒の職業観を醸成していますが、進路意識が遅い生徒、目標ははっきりしているがそれに見合った継続的な努力ができていない生徒が多い傾向があります。アンケート結果からも生徒自身はもちろん、保護者及び教員も生徒の進路適性の判断に少なからず迷いがあることがうかがえ、改善のための具体的な方策が必要です。各学年段階で、自分の適性を考える諸調査や学習場面を設定したり、生徒と保護者が互いに進路についての学びを深め、話し合う場を設定したりして、三者が一体となって進路決定や職業研究ができる体制を作っていかなければなりません。また、課外授業や個別指導に参加する意識のズレが教員と生徒の間で見られました。「やらされている」のではなく、生徒自らが達成目標を持ち、成績の伸長を実感しながら学べるよう、課外授業や個別指導の在り方をより充実させる必要があります。進路情報の提供に関しては、教室の掲示物の工夫を軸に、各種広報媒体の利点を生かしながら、新鮮で役に立つ情報をタイムリーに発信できるよう校内の体制を整えていきたいと思います。

Ⅲ 生徒指導および部活動（服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して）

清楚な服装・頭髪という面においては、三者が高い評価であり、まさに本校の自慢とするところです。今後も日々の指導と併せて、三者の共通認識のもと生徒の基本的生活習慣の定着を進めます。部活動への取組においては、課題を提出できず思うように部活動に参加できない生徒が一部見られるのが残念であり、こうした状態が生徒・保護者と教員の評価に差が表れた要因かと思われます。一方、教育相談体制の整備に力を入れているところですが、まだ十分な信頼を得られていない状況です。授業や学校行事を通した信頼関係づくりと相談しやすい環境整備、校内での教職員研修をより充実させる必要があります。面接週間や教科担任による面談、各種アンケートの結果を積極的に活用し、問題を抱えた生徒への早期対応に、より一層力を入れていきます。また、いじめ問題の根絶に関しては、ＳＮＳの正しい活用法を学ぶガイダンスやＳＳＴ（ｿｰｼｬﾙｽｷﾙｽﾞﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ）を取り入れ、自己表現や他者理解の重要性を計画的に指導しています。昼休みの全職員による巡回も日常的に行っており、今後も未然防止、早期発見、早期対応を職員一丸となって進めていきます。

Ⅳ その他（整理整頓、生徒の学校生活等に関して）

生徒達は毎日の清掃に非常に熱心に取り組んでいます。町内通学路のゴミ拾い活動の場面でも、進んで山林に分け入り、粗大ゴミを見つけてくる生徒が多く見られ、生徒一人一人の奉仕の精神に感心させられることが多々あります。今後も、指示をされる前に次の作業を予測し、率先して公共の美化に努め、実践できる力を育てていきたいと思います。しかし、私物の整理整頓に関しては、生徒と教員の評価に差が見られました。学習プリントや問題集の紛失につながっているケースもあり、当該生徒への指導と併せて、教室の環境整備にさらに力を入れる必要性を感じました。また、学校から家庭への情報提供に対し、保護者の評価が低めであるという結果が出ました。全体的な改善策はもちろん、特に寮生の保護者への定期的な連絡とその手段を只見町と連携を図りながら進めていきます。さらには、昨年に引き続き「生徒が楽しく学校生活を送っているか」という認識に、生徒と保護者、教員間で多少ズレが生じています。学校と家庭、それぞれの立場で生徒の正直な気持ちに歩み寄り、困難さを感じている部分の共有と、適切な支援を行っていくことが今後ますます重要であると考えます。

離任される先生方より

○小田　賢二教頭先生　　異動先：郡山高校

現在、只見町は人口減少の問題に直面しています。この対策の一つが只見町の進める山村教育留学で、これにより自然豊かな地元で育った生徒と他地域出身の生徒が空間を共有し、多感な十代後半を一緒に過ごすという只見高校の特色となっています。ところで、今後、日本全体も人口減少に直面します。只見の抱える諸矛盾が一国規模で生起することから、この地域は将来の日本の縮図といえます。只高生の皆さんは、このような場で高校生活を送っています。このことを、今後の人生の糧にしてほしいと思います。私自身も２年の短い間ですが、教員と生活者の視点でこの問題について考える契機を得ました。只見を離れることとなりますが、今後も見守っていきたいと思います。

○長谷川　こづえ先生　家庭科・卓球部

只見高校に初めて赴任したのが、昭和57年4月、それから早や34年。人生の半分以上をこの只見町で過ごしたことになります。初めて只見町に来たのが昭和57年3月3日。昭和56年12月25日空前の大雪のため福島県内は送電線の鉄塔が倒れて至る所で停電、停電のため水道、ガスも使えない！そんな年末でした。年が明けて只見町に来てみれば見渡す限り“雪・雪・雪”一面の銀世界・不安しかなかった只見町での教員生活のスタート。過ぎてみれば、昔の教え子たちがお父さん、お母さんになりその子どもたちを、また教えることができる。『なんと教員冥利に尽きることか。』高校教員になってよかった。只見町に来れて良かった。沢山の生徒達に出会えてよかった。たくさんの先生方・町の方々に出会えてよかった。只見高校で定年を迎え、只見町でおばあちゃんになれて良かった。本当にありがとう！そして、また4月からよろしく。

○伊藤　征洋先生　　英語科・剣道部　　異動先：郡山市立安積中学校

只見高校に赴任したのが今から３年前の３月。家の前にある自分と同じくらいに積もった雪の壁を見て、とても驚いたことを今でも鮮明に覚えています。素直な生徒達に囲まれ、本当に幸せな３年間を送ることができました。そして、私自身も生徒の皆さんと一緒にたくさんのことを学ぶことができました。只見高校の生徒の皆さん本当にありがとうございました。また、只見の地域の方々にも大変お世話になりました。町の色々な行事に参加し、只見町の方々の優しさに触れ、充実した私生活も送ることができました。家族一同本当に感謝しています。最後になりましたが、只見高校と只見町のますますのご発展を心よりお祈り致します。３年間大変お世話になりました。

○渡邉　豊先生　　３学年担任・英語科・陸上競技部　　異動先：南相馬市立原町第二中学校

只見高校職員として、そして只見町民として過ごしたこの 4 年間は、私にとってかけがえのないものとなりました。それは、只見高校の心温かい生徒たちはもちろん、保護者の皆様方、諸先生方、そしてなにより地域の方々に支えられ見守られながら、一日一日を歩ませていただいた年月であったからだと強く感じています。年を重ねるごとに、只見での生活が居心地の良いものになっていくのを実感してきました。町内で顔を合わせた際には、気軽に声をかけてもらうとともに、お話をさせていただく機会も自然に増えました。それらは私にとって、喜びや幸せをもたらすかけがえのない生活の一部となりました。皆様に与えていただいた貴重な日々を糧に、これからも歩みを進めていきたいと考えています。4年間本当にありがとうございました。

○宮城　聡先生　　３学年主任・国語科・茶華道部・野球部　　異動先：郡山高校

只見に来て早くも３年という月日が経ちました。この３年間の只見での思い出はどこを切り取っても、常に学年、そしてクラスの生徒とともにありましたので、生徒達の卒業とともに自分も只見を出て行くことは、区切りとしてちょうど良いのかもしれません。只見高校への赴任を知った時は、その地理・自然条件から動揺したのを覚えています。また、初任校が都市部の大規模校だった自分にとって、只見高校での仕事はとまどうことばかりでしたが、すぐに生徒たちの素直な人柄に惹かれていきました。今は素晴らしい生徒たちと巡り会えたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。只見高校で教員生活を送れたことは幸運だったと心の底から思っています。お世話になりました。ありがとうございました。

※最後に卒業生へ。また、会えることを楽しみにしています。そのときには胸を張って再会できるようにお互い新生活を頑張っていこう!!

○三宅　友也先生　　芸術科

一年生の美術の授業担当のため、生徒の皆さんとは限られた範囲のお付き合いでしたが、七年間で延べにすると百人以上の生徒との触れ合いとなります。この度、事情があって退職となりますが、自宅が町内ですので生徒の皆さんや地域の皆さんと顔を合わせる機会があるかと思います。そのような折には、お互いに声を掛け合える関係でありたいと願っております。

○遠藤　文隆さん　　事務　　異動先：会津保健福祉事務所

この度の人事異動により只見を離れることになりました。雪国に住むのは初めてだったため不安もありましたが、只見の豊かな自然環境と温かい地域の方々に囲まれ、楽しく充実した 3 年間を過ごすことができました。只見での生活では特に「挨拶」が印象に残っています。只見高校の生徒は毎日礼儀正しく元気に挨拶してくれますし、学校への通勤途中では地域の方々からも挨拶をしていただくことがたくさんありました。この温かく素晴らしい町の雰囲気がいつまでも続くように願っています。3 年間本当にお世話になりました。